

# 学校保健

S C H O O L   H E A L T H

2026. 1 No. 376

公益財団法人  
日本学校保健会  
JAPAN SOCIETY OF SCHOOL HEALTH  
<https://www.hokenkai.or.jp/>

子どもたちの心身ともに健やかな成長を願って



## 主な誌面

- 令和7年度 新春座談会 特集
- なうびに中央大會会報告
- 2 8

- 令和7年度 各地区ブロック大会会報告
- シリーズ⑩ 群馬県立玉村高等学校 第71回日本学校保健会学術大会の開催
- 10 11 12 13 14

公益財団法人 日本学校保健会 会長

まつもと  
松本  
吉郎

新年明けましておめでとうございます。

平素より子どもたちの健やかな成長に向け、ご尽力いただきしております皆様に深く感謝を申し上げます。

近年の社会環境や生活環境の急激な変化は、子どもたちの心身の健康に大きな影響を与え、いじめ、不登校児童生徒の大幅な増加、視力低下や生活スタイルの変化など、様々な健康上の課題が顕在化しています。このような中、子どもたちに生涯を通じて健康な生活を営んでいく資質や能力を育み、ヘルスリテラシーを高めていくことが、強く求められており、これまで以上に学校と地域の医療系専門家との組織的連携を一層強化し、家庭・地域社会との連携を深めることが重要です。

本年度、本会は、「保健教育・保健管理に関する調査委員会」において、学校医、学校歯科医及び学校薬剤師の職務の実態等の調査を全国の教育委員会、公立学校を対象に実施いたしました。一般事業では、「難聴の予防・啓発指導資料」作成委員会において指導資料の作成を進めています。また、登録数が約40,000施設を超えた「学校等欠席者・感染症情報システム」では、本システムと学校の校務支援システムとのデータ連携事業を進め、入力作業の簡略化とサーバイランスとしての機能の充実を目指して各自治体へのはたらきかけを続けたところ、例年より多くの自治体に参加いただき、連携自治体数は20自治体を超えました。

本年も我が国の学校保健の向上・発展のために積極的に事業を推進してまいります。皆様には、より一層のご活躍を祈念いたしますとともに、今後とも本会へのご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

物事が大きく動き出し活気あふれる年とされる「午」年の令和8年。日本の子どもたちが、心身ともに健やかに成長していくことを願っています。

オンラインセミナー

近視から子どもの目を守る  
～養護教諭に知ってほしいこと～

開催報告・オンデマンド配信ご案内

2025年8月、「子どもの近視」をテーマにオンラインセミナーを開催しました。

近年増加している「子どもの近視」について、病態や進行リスク、近視による問題点や影響とともに、教育現場で実践できる予防・啓発の具体策をご講演いただき、多くの養護教諭の皆さまからご好評をいただきました。

この度、セミナーのオンデマンド配信が決定しましたのでご報告します。ぜひご視聴のうえ、「子どもの近視」に関する児童・生徒への指導にお役立ていただければ幸いです。

- 主催：公益財団法人日本学校保健会/参天製薬株式会社
- 視聴方法：【参天 学校関係者向け資材】で検索

[URL] [https://www.santen.com/jp/healthcare/eye/library/myopia/gakko\\_keihatsu](https://www.santen.com/jp/healthcare/eye/library/myopia/gakko_keihatsu)

二次元コードからも  
アクセスいただけます

## 回覧

校長	教頭	保健主事	養護教諭	栄養教諭・学校營養顧問	PTA会長	学校医	学校歯科医	学校薬剤師

【お知らせ】「学校保健」は年6回（奇数月）の発行です。学校保健委員会の参考に学校三師の方々へもご回覧ください。



(敬称略)

**瀧澤** 今日は新春座談会ということで、令和7年度の年間テーマである「生活環境の変化と学校保健」について、どんな変化が子供たちの健康に大きく影響を与えていたのか、年頭にお話を聞いてみたいと思います。

ここ近年、子供たちの生活環境、特に家庭生活や学校生活の変化、どんなふうに子供の様子が変わったのか、その中で、子供たちの健康にどのようなことが現れているのかということを、先生方にお話を伺いながら話を深めていきたいと思います。

まずは大崎先生から、近年の児童生徒の様子をご覧になって、学習、生活や遊びの中で、近年、特に変わってきたなと思われる点についてお話をいただければと思います。

**大崎** まず子供たちの「遊び」については、ゲーム機やPCによる遊びが主流になってきています。屋外で遊ぶ子供たちが減って、室内あるいはオンラインゲームをするという遊びの形態が多くなってきているように思います。

また、学習環境という点では、ICT導入が進んでいます。小学校、中学校はかなり進んでいると思いますが、高校は1人1台タブレットがやっと全学年揃うというような状況で、授業展開や教育相談でも、ICT機器がようやく使われるような状態になってきております。

また近年の気温上昇については、体育館や武道場等へのエアコンの導入が、小中学校で22.7%、高校で12.9%と、まだまだ公立の学校では間に合っていないために、授業、行事、あるいは部活動に影響が大きく出ていると思っております。

**瀧澤** ありがとうございます。富永先生、学校環境衛生の立場から、気が付かれていることはありますでしょうか。

**富永** 今、大崎先生が言われたように、新型コロナウイルス感染症の影響でICT機器が導入されて教室への電子黒板の導入が進んでいますが「輝度」の基準がないのです。着席して電子黒板を見てみると席によって映り込みがあったり、まぶしかったりします。席だけでなく、一日の時刻によっても変わるので、授業をする先生に気を配っていただきたいと思います。子供の中には電子黒板が見えなくても、何も言わないでいる子も少なからずいるので、そこは大人の寄り添う力が必要と思います。



熱中症対策という点では、必ずWBGT計をおいて、WBGT指数によって体育を行うかどうか判断していただきたいと思います。夏場は体育の授業や水泳の授業がほとんどできないという話があります。これらの授業を1時間目にする等の対応も検討する必要があるかもしれません。熱中症の疑いになったときに与えられるようなスポーツドリンクや経口補水液も保健室に置いてほしい。いざという必要な時に与えられるよう備えてほしいですね。

また、メディアリテラシーが十分でない子供たちが誤った情報を得ています。1つはオーバードーズなのですが、薬物乱用防止の立場から、また医薬品を販売する立場から、販売規制はするものの、学校においても精神的なケアをする、そのSOSが出た時にどのような手を打つ必要があるかということを議論しているところです。

エチルベンゼン（揮発性有機化合物）の室内濃度指針が厚労省で改訂になり、学校環境衛生基準にもうすぐ反映されると思いますけれども、エチルベンゼンの毒性は、聴覚に影響があるという研究結果が出ています。新しい基準値に変わったときは、基準以内にすることを確認していただきたいですし、換気等を行って健康被害のないようにしていきたいです。

**瀧澤** 山田先生は、日常の健診や学校健診を通して、子供たちの近年の変化をどう感じいらっしゃいますか。

**山田** 先程、大崎先生がおっしゃったように「遊び」の問題は大きいかなと思います。



前かがみや背屈が不得手な子が多い。身体が硬いんですね。それによって、ちょっとしたことでも大きな怪我をしてしまう。これは入学前の遊びができていないことがあると思います。遊び場がない、仲間がないというのが大きな問題で、そのまま小学校に入ってきたときに、ちょっとした事で怪我が起きてしまいます。

もう1つは、移動教室前健診において、1クラス30人程度のうち20人くらいが乗り物酔いの薬を使う、という報告がありました。平衡感覚機能が弱いから、どうしても乗り物酔いをしやすいのではないかとみています。

また、近年、自宅に畳があるケースも少ないですよね。フローリングででんぐり返しは痛くできない、そういうことも1つの要因かなと思っています。

**瀧澤** 山室先生は、口腔保健の立場から、日中の診療や学校健診の中で、近年の子供において先生が気になっていることはありますでしょうか。



**山室** 乳歯の時点で、歯と歯の間の空隙がほとんどなく、歯が重なっているお子さんも多く見受けられるようになっています。

中学校の学校歯科健診において口を大きく開けていられない、同じ姿勢をキープすることが難しくなっている生徒が多くなっているのかな、というのも気になります。

また、保育園での話ですが背筋を伸ばして椅子に座っていられない、足を組んでしまう、なども気になっています。やはり先ほどから出ている「遊び」の中で自然と身に付いていた体幹を鍛える、姿勢を維持する機能を培っていないのかなという気はしています。例えば、保育園でお子さんが転ぶときにさっと手が出ずに歯をぶつけるケースが増えてきています。

後は、「お口ぽかん」のお子さんも増えていますね。姿勢を正して座っていると口は閉まりますが、猫背になっていると口を開けているのが楽なので、こんなところにも影響していると感じています。

**瀧澤** 大崎先生、今までのお話を聞いて、付け加えることがありましたらお願ひします。

**大崎** 中高生に多いのではないかなと思いますが、オンラインゲームに結構のめり込んでしまい、昼夜が逆転して学校に来られなくなって不登校になってしまったというようなことがありました。食事も後回しになったり、ずっと座っていて床ずれのような状態が臀部に起きたりした子もいました。不登校から脱出させるということが、かなり大変でしたね。

**瀧澤** ありがとうございます。弓倉先生、今までお聞きになっていかがでしょうか。



**弓倉** 生活環境の変化によるテーマがどんどん増えていますね。オーバーホールであったり、運動の問題であったり、生活習慣の問題等に加え、スマホや携帯電話によるネットいじめや出会い系サイト、SNS等の問題が増えてきました。これらの変化に無防備なままに時間が過ぎて、今の状況に来ているのではないかと思います。

外遊びにおいても、公園でも禁止事項ばかりが増えて、どうやって外で遊べばいいんだ、というような時代ですね。

それから、後はやはり生活環境でいうと大きいのは気温の変化ですね。ここにいる先生方が子供の頃は、夏場も扇風機で済んでいたと思いますが（笑）、今はもうエアコンなしではいられません。最近、二酸化炭素やメタン等の温室化ガスがどんどん増えていて、おそらく来年もこの異常気象は続いていきますので、エアコンの配備についてもより進めていく必要があるだろうと思います。甲子園の高校野球では今年、ナイトゲームも導入されましたし、暑い時間帯での体育というものを涼しい朝の時間に移すとか、そのような工夫が必要だと思います。

**瀧澤** 大崎先生、ますます暑くなりつつある環境の中で、どうやって日常の教育活動を展開していくのか、あるいは現実的にネットとどう向き合うのかということについて、各学校で工夫されたり、保護者にお願いしたりしていることはどんなことがあるでしょうか？

**大崎** 気温上昇については、始業式や終業式、体育大会の開会式等の行事を放送での開催にする等しています。また、当然、体育の授業は、暑さ指数（WBGT指数）に応じて内容を変えていくような対応をしています。

今年、本校では、体育祭のナイター開催をチャレンジしようと動きました。千葉県で初めての試みでした。結局、天候の都合でナイター開催は実施しなかったのですが、もしも成功したら、他にも紹介しようと考えていました。



**瀧澤** それは大変興味深い取り組みですね。山田先生、臨床医の立場からいかがでしょうか。

**山田** 私の区では、生活習慣病健診というのを中学1年生に行いますが、体育の授業以外で身体を動かしていない女子生徒が多いです。これはちょっと由々しき事態だと思っています。身体を動かすことの楽しさや、その理由をもっと知らせていかなければいけないのですが、一方で温暖化という問題があって、体育の時間が確保できなくなってきてている。運動に親しみながら健康な身体を作っていく、これは大きな課題だと思います。

一方では、文科省が進めている部活動の地域移行ですね。区立等の体育館や民間のスポーツ施設にはクーラー等の設備がありますから、それらを活用していくのもあると思います。例えば、ある中学校の水泳部は、スポーツクラブに委託して、区内のプールを活用して指導を展開しています。

また結婚前のプレコンセプションケアを考えたときに、女性が運動しないで、食べないで痩せていく現状というものについても心配をしています。今までの肥満の問題に加えて、この痩せの問題についても、クローズアップしていくべきだと感じています。



**瀧澤** 骨量の問題、骨粗鬆症につながってしまうこともありますからね。

富永先生、やはり環境の立場から、今の暑熱に対する対応は当然必要ですよね。

**富永** 換気の検査の指標は、CO<sub>2</sub>濃度ですね。経験上、インフルエンザの時期に窓開けをすると教室の中でまん延しにくい、というのは知っていて担当の各校でも実施していましたが、コロナの時に急に着目されましたね。CO<sub>2</sub>濃度が1500ppm以下を目安に、1000ppmが望ましいということで対応をしました。この換気は良い健康習慣として以前より1割2割増して残っているんですが、やはり寒いと窓を閉めてしまうんですよね。

**山田** この夏、メディアがクーラーつけて外出は控えて、と言っていたじゃないですか。エアコンをつけて、換気をしない。家庭でも学校でも換気ができていません。



**富永** 私の担当校は、インフルエンザによる学級閉鎖が今までないんですよ。私がうるさいから、窓開けるよ～って（笑）。

今、ロスナイとか、強制自動換気もあります。予算が取れれば、それを入れてもらえばだいぶ違いますね。

また、今の異常気象下での水泳授業中に、プールサイドで見学している子供が気分悪くなってしまうと相談を受けることもありました。そこでビデオ中継を使った涼しい教室での見学を提案したら取り入れてくれた学校もあります。

やはり大人の知恵でなんとかしてあげたいですね。今の子が体育ができない、泳げない、身体を動かさないというのはいかがなものかと思います。運動できる環境を作ってあげたり、そういう習慣を教えてあげたりしないとかわいそうですね。

**山田** 空間と仲間と時間、この3つの間をなんとか提供していくようなことを工夫しないとですね。

**瀧澤** 山室先生は、近年の子供たちを見ていて、特に食環境もだいぶ変わってきてているので、その辺りからもアドバイス等ありますでしょうか。



**山室** 歯石がついているお子さんが多くなってきています。保育園児でもついています。

メディアでも歯ブラシの広告をしていますし、1歳6ヶ月児健診、3歳児健診の機会でブラッシング指導をしていますから、歯みがきをしてないわけではないと思うので、それ以外の原因があるのではないかと感じています。その1つは食べ物だと思っています。あくまでも推測ですけれども、柔らかいものを食べる機会が圧倒的に増えている、軟食化していることが歯石がつきやすくなっている一つの要因ではないかな、と思っています。ひいては噛む力も衰えますし、あごの発育にも影響してきていると思います。

**瀧澤** 大崎先生、水泳については、外部に委託しているところは多いのでしょうか。

**大崎** 今、部活動の地域移行は、中学校までが中心ですね。高校の部活動の地域移行ってことは、まだ出てきてないです。

中学校は、水泳の部活動を外部のプールの施設で実施しているという形も見受けられますね。水泳だけじゃなくて、他にもあるんですが、これは地域差がかなり激しいです。

**山田** 小学校の先生や校長先生にお聞きすると、水泳の授業が一番神経を使って大変だとおっしゃっています。

**大崎** 特に小学生は、一歩間違えたら命の危機に直結するので、かなり神経を使っていると思います。

**瀧澤** 我々が知っている文化が、令和に入ってから数年の中で大きく変わっていると、今の大崎先

生のお話を聞いても実感をもって感じられますね。

先ほどちょっと触れていただきました、オーバードーズの問題。医薬品が身近になっているという側面と、国もセルフメディケーションをかなり推進しているという流れの中で、医薬品との付き合い方というのは、人格形成期の子供たちが向き合っていかなければいけない1つの大きな課題だと思いますが、富永先生は専門の立場からどのようにお考えでしょうか。

**富永** 生きづらさに苦しみ、気分変容を求める子供が、オーバードーズで健康被害に遭っているわけです。身体的のみならず精神的な被害になってきています。学校では、児童生徒が登校できなくなってしまう前に危険信号が出るようです。さっき大崎先生がおっしゃったオンラインゲームとかで遅刻が増えて、午前中は登校しない、そのうち一日来ない、と。そういう子がすごく危ないですね。さらに親が構ってくれなくて、SNSばかりで情報を得て、オーバードーズに走ってしまう例も見られます。

その危険信号に誰かが気付く仕組みを作らないといけない。我々は販売の段階で売らない、手軽に手に入らないようにするという努力は行政と一緒に続けますけれども。

**瀧澤** 非常に重要な視点ですね。

今後、子供たちがこれから21世紀を生きていく中で、学校保健として何ができるのか、先生方から一言ずついただきながら、また弓倉先生から日本学校保健会としてどういうふうに取り組んでいけばよいか、お話を伺っていきたいと思います。



**山室** いろいろな情報が溢れでおり、何が正しいか、何が正しくないのか、受け取る側も勉強しないといけないなというのは常に感じています。我々も、学校の先生方も、保護者の方も、皆さんのがやっぱり協力し合っていかないと、誰かだけが頑張っていてもこれはもうどうにもならないと思います。

正しい情報を共有し合う機会を設けていくというのは今後も必要なではないかなと思います。その一助として、学校保健委員会をもっと活用できたらよいのではないかと思います。設置はされているけど開催されていないところがあるという話も聞いています。皆さん、お忙しくて、なかなか一堂に会すことは難しくはなっているかとは思うんですけども、子供たちのためにもっと学校保健委員会を活用できたらいいのでは、というふうに感じています。



**山田** 日本の学校保健制度というのは、世界と比べれば非常に長けた制度です。内科、耳鼻科、眼科の先生、また歯科の先生がいて薬剤師の先生がいる、という体制を整えているわけですからこれを保護者の方に理解してもらって、うまく使ってもらえばと思うんですね。

そのためには、私たちが学校に出向いていくことが必要じゃないかなと思います。例えば、健康教育の場で児童生徒に教える授業を増やすとか、保護者に対して、いろんなことを指導できるような機会を多くするとか、そのようなことを通じて、いわゆるヘルスリテラシーを高めていく。これが将来、子供たちのオーバードーズを防ぐことにもつながると思います。全体のヘルスリテラシーを高めて、「健康がとて

も大切なんだ」と常に私たちが発信していくことが必要だと思います。

**大崎** 学校現場で、オンラインゲームについての注意やSNS被害に遭わないための指導などは、学校医の先生の協力を得たり、外部講師としてLINEなどの業者の方による講演会や研修を実施したりしています。子供たちが、自分で自分を守れるように知識を与えるという機会を作るというようなことを外部の力を借りながら実践しています。

体育の授業や部活動において生徒たちの運動量の確保は大事であると考えています。暑いときでも体育ができる環境をということで体育館や体を動かす場所にエアコン設置をお願いしているところですが時間がかかるので、現場の工夫としてエアコンのある教室でのクールダウンを挟みながら行うなど、安全に運動量を確保することに力を注いでいます。



**富永** 薬局はもともと中学校区毎にあることが多くて、地域の皆さんの様子が見えます。コロナ明けに学校や地域の夏祭りなどに協力したのが好評で、これは鍵になるんじゃないかなと思います。学校保健委員会で地域の方々も一緒に健康課題を検討していく地域コミュニティの役割を担うということです。地域活動も、オンラインで会議をするとか、ICTを上手に使っていろいろと工夫しながら地域で子供を守っていこうということを、大人みんなが知恵出してやっていくのが鍵じゃないかなと思います。

薬剤師会も保険調剤を主としている薬剤師が多いので、昔のいわゆる薬局のおじさんは少なくなってきましたけれども、そういう人が学校薬剤師になってたんですね。地域のお医者さんとも仲がよくて、薬剤師が地域のみなさんとも顔見知りで。学校三師（医師、歯科医師、薬剤師）がもっと学校保健委員会へ出て行って、地域を活性化していくべきだと思います。

**瀧澤** 弓倉先生、最後にお願いします。

**弓倉** やはり、社会全体が変質してきていると思います。その中に例えばICTや医薬品の販売規制緩和などがあり、よい面もあるけれども、その影の部分が子供たちの生活に負の影響をもたらしているのだろう、と思います。

そういう中で、いかに子供たちを守っていくのか、いかに学校現場を守っていくのか、いかに保護者や子供たち、児童生徒たちの意識や行動変容をもたらすような、促すような働きかけができるか。いわゆる生きる力を育てるための正しい情報の発信と啓発を日本学校保健会としては、継続してゆきたいと思います。



**瀧澤** 先生方が挙げてくださった問題で、地域が子供たちに眼差しを向けていく中で、それぞれの子供の生活の色々な課題や方向性というものを大人たちが見い出していくことが必要で、これから私たちももう一度、それこそ扇風機の時代のよさを振り返るべきところに来ているんじゃないかなというところを、私もお話を聞いて感じました。本日は、ありがとうございました。

## 令和7年度全国学校保健・安全研究大会ならびに中央大会報告

### 令和7年度全国学校保健・安全研究大会

#### 生涯を通じて、心豊かにたくましく生きる力を育む健康教育の推進 ～急速に変化する社会の中で、主体的に健康課題の解決に取り組む子供の育成～

期　　日：令和7年11月20日（木）・21日（金）

開催方法：収集開催及び後日オンデマンド配信

内　　容：

- 11月20日（木）全体会
  - ・開会式
  - ・表彰式 学校保健・学校安全の功労者に対する文部科学大臣表彰を行う。
  - ・記念講演
    - 演題：「現代的な健康課題の解決に向けた学校保健・安全の体制づくりをめざして」
    - 講師：横浜国立大学・教育学部 教授 物部 博文 氏
- 11月21日（金）課題別研究協議会
  - ・第1課題 学校経営と保健組織活動
  - ・第2課題 保健管理
  - ・第3課題 心の健康
  - ・第4課題 現代的健康課題
  - ・第5課題 歯・口の健康づくり
  - ・第6課題 学校環境衛生
  - ・第7課題 喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育
  - ・第8課題 学校事故防止対策
  - ・第9課題 教科等における安全教育
  - ・第10課題 関係機関等との連携による安全の体制整備
- 全国学校保健会中央大会

本大会は、全国各地から学校保健・学校安全関係者約1,300名参加のもと、収集及び後日オンデマンド配信により開催されました。

1日目は、開会式及び令和7年度文部科学大臣表彰の表彰式が行われ、学校保健・学校安全の充実、発展に多大な功績をあげられた200名（学校・団体を含む）に表彰状が授与されました。記念講演では、横浜国立大学教授の物部博文氏から、「現代的な健康課題の解決に向けた学校保健・安全の体制づくりをめざして」をテーマにお話を頂戴いたしました。

2日目は、10課題についての実践発表と活発な協議、さらに、講師から貴重な講義をいただき、充実した研究協議会となりました。

本大会の成果が全国の学校園で活かされ、今後の学校保健・学校安全の一層の推進につながるよう願っています。



### 令和7年度全国学校保健会中央大会

主催 文部科学省、神奈川県教育委員会、横浜市教育委員会、公益財団法人日本学校保健会、神奈川県学校保健連合会

主管 公益財団法人日本学校保健会、神奈川県学校保健連合会

本大会は例年、全国学校保健・安全研究大会において開催しています。本年度は11月21日（金）、パシフィコ横浜ノースにて開催しました。

日本学校保健会の菊岡正和副会長による開会のことばではじまり、松本吉郎会長、開催地を代表し神奈川県学校保健連合会の鈴木紳一郎会長、文部科学省総合教育政策局健康教育食育課の樋原哲哉課長の代理として川畠千種健康教育調査官、次年度開催地の愛知県学校保健会の西脇毅会長の挨拶の後、弓倉整専務理事より日本学校保健会の上半期事業進捗状況報告、全国の学校保健会活動報告は、関東甲信越静ブロックより山梨県、近畿ブロックより兵庫県、指定都市より広島市の学校保健会から特色ある活動等の報告発表をいただきました。また、国への要望事項等に関する協議では、各学校保健会、地区ブロック大会等から提出いただいた要望事項「組織活動・管理運営に関する充実」「健康教育の充実」「健康管理に関する充実」について検討し、各要望事項の優先順位等がまとめられました。渡邊弘司副会長による閉会のことばで無事終了いたしました。

今大会の開催に当たり、会場等のご手配・運営等にご協力いただいた神奈川県教育委員会、神奈川県学校保健連合会の皆様をはじめ関係者の皆様に感謝を申し上げます。次年度は11月20日（金）、愛知県名古屋市で開催予定です。



全国健康づくり推進学校表彰校の実践 ⑤

令和6年度最優秀校 群馬県立玉村高等学校

## 一人一人が輝ける学校の活性化を目指して ～生徒、教職員が一体となった学校保健活動の推進～

### 1 学校紹介

本校は、自然豊かな群馬県南部に位置し、地域に根差した普通科高等学校として令和6年度に創立102周年を迎えた。伝統校で学ぶ全校生徒数は226名、教職員数28名、全学級数は6学級の小規模校である。

学校教育目標は、「知性と品位を磨き、心身ともにたくましく、他人の痛みがわかる人材を育成する－璞玉から珠玉へ－」を掲げ、生徒と教職員そして地域の方々が一体となって、特色豊かな教育活動を展開している。



### 2 学校経営方針と健康づくり

学校設定教科「教養表現」、総合的な探究の時間、特別活動から構成される「玉高チャレンジプラン」で培った生徒の主体性を学校保健活動の随所においても活用するように努め、学校行事や教科と関連付けた保健・安全教育を展開していくよう、学校全体が一致団結している。

### 3 特徴的な活動、特色ある取組

#### (1) 主体的な生徒保健委員会の活動

##### ①全校参加型の学校保健委員会（オンライン配信の活用）

学校保健委員会のテーマは、「お互いが支え合う健康づくりについて」と題し、i) ストレスとの上手な付き合い方、ii) 献血推進活動、iii) ヘルスサポーター養成講座の3点に重点を置いた活動内容について研究協議を行った。指導助言者として、学校医、学校薬剤師、玉村町保健センター、玉村町食生活改善推進協議会、群馬県赤十字血液センターの方々をお招きし、生徒保健委員会と有志協力生徒が中心となった研究発表および意見交換を行った。



##### ②講演会の実施

毎年、講師を精選し、保健委員会の生徒が主体となった薬物乱用防止教室や性・エイズ講演会を開催している。また、振り返り活動として、ワークシートを用いた意見交換を実施している。

薬物乱用防止教室では、重要ポイントである「REALの原則」を学び、薬物乱用に誘われた時の断り方について、自分自身を主語にした「I (アイ) メッセージ」【R :Refuse (断る) E :Explain (伝える) A :Avoid (避ける) L :Leave (立ち去る)】の送り方を習得した。

## (2) 地域や外部機関との連携を図った保健活動

### ①認知症サポーター養成講座

少子高齢化社会の現状を踏まえ、誰もが過ごしやすい地域社会を育むために認知症サポーター養成講座を開催した。講座を通じて、認知症は誰でも罹患する可能性があることを理解し、家族や地域の人々などの支えが大切であることを理解することができた。

### ②ヘルスサポーター養成講座

「全世代に広げよう！健康寿命延伸プロジェクト～若者世代編～」

生徒達は食生活ゼミを受講し、高校生世代にもできるバランスの整った料理を学んだ。自分自身で作ることのできる栄養価の高い献立について意見交換も行い、自身の食生活改善の参考とした。



### ③ゲートキーパー養成講座「いじめ・自殺予防のための味方になりきるコミュニケーション講座」

気持ちが落ち込んでしまっている相手に、どのような言葉をかけるべきかについて「味方になりきるコミュニケーション」を身に付け、日常生活の中で活用する意欲と態度を養うことができた。

### ④献血推進活動

群馬県赤十字血液センターと連携し、同意した生徒と教職員を対象とした献血活動を実施した。また、所属職員の方を講師に招き、動画作成や次年度に向けた勉強会を行うことで献血活動に協力する意義を学校全体で考え、献血活動に対する理解を深めた。

### ⑤歯科衛生指導

玉村町内の幼稚園、小学校、中学校、高等学校において、発達段階に応じた系統的な歯科衛生指導を実施している。本校の生徒達は、健康寿命の延伸を目指し、むし歯や歯周疾患に罹患しないための丁寧なブラッシング方法や定期受診の大切さについて学習した。また、管内の保健福祉事務所が主催した歯科保健調整会議では、専門家の知見も交えながら地域全体で課題解決についての方策を協議した。

## (3) 安全衛生委員会を活用した教職員の職場環境づくり

本校では、生徒の心と体の健康と同様に、教職員の心と体の健康にも重点を置いている。産業医の助言のもと、毎月定期に安全衛生委員会を開催し、働きやすい職場環境の維持や改善の成果を積み重ねている。

## 4 まとめ

学校保健推進活動を通じて、個性豊かな生徒達と一致団結した教職員の絆はより深まり、いかなる困難にも立ち向かえる強い心と体の基盤を作り上げることができている。また、積極的に新しいことにも挑戦し、その先には必ず成長があることを信じて、何事に対しても臆することなく進化を続けている。学校全体の活性化が地域社会と融合し、生徒と教職員がより一層輝ける日常生活を追究することによって、やがては世界中の人々が豊かな人生を送れることを心から願っている。



シリーズ 111

## 「健康教育をささえる」

～学会の現場から～

# 第71回日本学校保健学会学術大会の開催

茨城大学教育学部 教授  
一般社団法人 日本学校保健学会 理事 たきざわ としゆき  
瀧澤 利行

## 1. 日本学校保健会と日本学校保健学会

公益財団法人日本学校保健会の構成団体として、一般社団法人日本学校保健学会が含まれていることはあまり知られていないかも知れない。日本医師会をはじめとする学校保健に関わる専門家組織が構成団体を占める中で、学術研究団体である学会として日本学校保健学会だけが日本学校保健会の構成団体であることは、日本学校保健学会の創立当初から日本学校保健会との連携を想定した学会設立の事情があったことによる。詳しくは、『日本学校保健会六十年史』『日本学校保健会八十年史』『日本学校保健会百年史』あるいは『日本学校保健学会50年史』を参照していただきたいが、端的に述べれば、戦後日本における学校保健の推進にあたって、学校保健の学術的・科学的研究を日本学校保健学会が担い、その成果に基づいて学校保健管理や学校保健教育、あるいは学校保健組織活動の実践的普及をいわゆる「学校保健センター」機能を十全に展開して推進していくことが日本学校保健学会の役割であると考えられていた。

その後、日本学校保健会においても、多くの専門家からなる研究委員会がおかれて学校保健に関する学術研究をすすめるようになり、他方で日本学校保健学会もその年次大会である総会（現在は学術大会）では多くの実践的視点からの企画が組まれ、令和6年度の学術大会のメインテーマは「集まれ、グッドプラクティス」と標榜されるほどであった。とはいえ、本会常務理事・顧問を務められた故高石昌弘が表現した「日本学校保健会と日本学校保健学会は、日本の学校保健推進の車の両輪」という関係性はこんにちにおいても決して薄れるものではない。

## 2. 第71回日本学校保健学会学術大会の概況

第71回日本学校保健学会学術大会は、令和7年11月29日（土）、30日（日）の両日で、千葉県千葉市の千葉大学で開催された。学術大会長を務めたのは、高橋浩之千葉大学名誉教授・放送大学千葉学習センター長である。ホームページに掲載された終了挨拶によれば、参加者は600名を超える盛況であった。

メインテーマは「教育としての学校保健を加速する」と題され、学校保健がもつ教育的側面をさらに積極的に展開する意図を込めて、学会企画が立てられたことが窺われる。

大会長講演は、メインテーマ通り「教育としての学校保健を加速する」（演者：高橋浩之 放送大学・千葉大学名誉教授、座長：松浦賢長 福岡県立大学・第72回日本学校保健学会学術大会長）であり、特別講演は「検診を健康への気づきに変えて健康を守る力を育てる～歯科検診を活用して～」（演者：高石恵子 君津市立周東中学校養護教諭、座長：高橋浩之 学術大会長）、メインシンポジウムは「学校保健の教育的側面を考える」（シンポジスト：佐見由紀子 東京学芸大学教授、数見隆生 宮城教育大学名誉教授、齋藤千景 埼玉大学教授、西岡伸紀 京都女子大学教授、コーディネーター：高橋浩之 学術大会長）と、まさにメインテーマを確実に追求しようという意図が鮮明な内容構成であり、いずれのプログラムにも高橋学術大会長が関わるというテーマ実現の熱意を感じさせるものであった。

また、本学術大会での特色と思われる企画のひとつがシンポジウム①「中学生・高校生から見た学校保健」（コーディネーター：七木田文彦 埼玉大学准教授）である。このシンポジウムは、埼玉県立大宮高等学校、埼玉県立春日部女子高等学校、埼玉県立吹上秋桜高等学校、および埼玉大学教育学部附属中学校の生徒諸氏が、日頃の保健授業や学校保健活動への感想や疑問を発表しながら、学会参加者との交流を図るものであり、学校保健の受益者である児童生徒が学校保健をどのように見ているかを理解するうえで貴重な機会であり、学会企画としては斬新的である。

社会科学的研究では当事者研究や研究過程への当事者参加がいまや珍しいものではなく、むしろそれが重要であるとの認識が共有されつつあるが、学校保健学でもこうした当事者研究の一環として、本企画を受けとることができるものである。

シンポジウム②「学校保健の教職必修化はなぜ実現しないのか—専門家の存在が阻む必修化の壁—」（シンポジスト：岩崎順子 淑徳大学教授、野井真吾 日本体育大学教授、内田良 名古屋大学教授、上地勝 茨城大学教授、コーディネーター：物部博文 横浜国立大学教授）は、日本学校保健学会が創設間もない頃からしばしば提唱してきた教育職員免許法においてすべての免許種において科目「学校保健」の必修化を実現させることについて、その現状や障壁について議論するものであった。現在、教員志望者の減少がいわれる中で、教職科目としての「学校保健」を加えることは、情勢的に難しい面があるとは思われるが、ある意味で日本学校保健学会、あるいはかつては日本衛生学会や日本公衆衛生学会などでも要望されていたことであり、関連する学会のいわば悲願であるだけに、学術的にもその必要性を十分論証することを含めて、この機運を生かしていく必要があると思われる。

この他にも、学会委員会企画として、学術委員会企画研究報告「学校健康診断の今日的課題：受診率の実態、受診困難な児童生徒への対応、不登校児童生徒への対応など」（コーディネーター：後和美朝 摂南大学教授、大沼久美子 熊本大学教授）、涉外委員会企画パネルディスカッション「学術活動における『多様性（diversity）』『公正性（equity）』『包摂性（inclusion）』を考える」（コーディネーター：瀧澤利行 茨城大学教授、山田浩平 愛知教育大学教授）、編集委員会企画ワークショップ「優秀査読者賞の受賞者に聞く：論文のどこをどう読むのか？」（話題提供者：喜屋武享 琉球大学准教授、片岡千恵 筑波大学准教授、コーディネーター：宮井信行 和歌山県立医科大学教授、森田一三 日本赤十字豊田看護大学教授、竹鼻ゆかり 東京学芸大学教授、森岡郁晴 和歌山県立医科大学名誉教授）、学術・国際交流委員会企画シンポジウム「教員のメンタル休職増加を防ぐ」（コーディネーター：佐々木司 東京大学名誉教授、笠井直美 新潟大学教授）など、学会諸委員会の活動の集約として、それぞれ興味深い視点からテーマが立てられ、実り豊かな議論がなされた。

とはいっても、学術集団としての学会の本来の研究成果は、学会員一人ひとりの研究活動の内容で測られるべきであると思う。その点で口演とポスターの双方において、若手研究者からベテランの研究者までが対等に議論する一般発表こそが年次学会の「精華」である。今次学会で日頃の研究を発表された会員各位の研究の進展を願うばかりである。

なお、次回の第72回学術大会は、令和8年11月7日（土）、8日（日）に福岡県福岡市の福岡女子大学を会場として、松浦賢長福岡県立大学教授を大会長として開催される。多くの方々のご参加を願いたい。



シンポジウム「中学生・高校生から見た学校保健」に登壇した中・高生たち  
(提供: 七木田文彦埼玉大学准教授)

## 令和7年度 各地区ブロック大会報告

### 第72回北海道学校保健・安全研究大会釧路大会

生涯を通じて、心豊かにたくましく  
北の大地を生きる子どもの育成を目指して

期 内	日：令和7年10月26日（日） 容： 1 開会式・表彰式 2 基調講演 ・演題「子どもたちを守るために～地震災害と心のケア～」 ・講師 震災・学校支援チーム（EARTH）員 姫路市立荒川小学校 主幹教諭 三村 理加 氏 3 部会別研究協議 ・第1部会 心豊かにたくましく生きる力を育むための特色ある学校経営と組織活動の進め方 ・第2部会 豊かな人間性と社会性を育み、心の健康の保持増進を目指す教育の進め方 ・第3部会 多様化する現代的健康課題に適切に対応するための保健活動の進め方
-----	--

令和7年10月26日（日）、釧路市において第72回北海道学校保健・安全研究大会が104名の参加を得て開催された。

釧路市生涯学習センター まなぼっと幣舞において開会式が執り行われ、北海道教育委員会教育長、日本学校保健会会長、北海道学校保健会会長が主催者として挨拶、引き続き来賓として、釧路市総合振興局長、釧路市長が挨拶を述べた。

引き続き行われた学校保健功労者表彰では、永年にわたる学校保健や学校安全の充実にご尽力された功績を称え、学校医、学校歯科医、学校薬剤師、教職員の方々88名を表彰した。

続いて、震災・学校支援チーム（EARTH）員（姫路市立荒川小学校 主幹教諭） 三村 理加 氏による「子どもたちを守るために～地震災害と心のケア～」と題した基調講演がリモートで行われた。

午後からは、3つの部会別研究協議が行われ、研究協議の視点に基づいた提言をもとに、熱心な協議が進められた。



### 第46回東海ブロック学校保健研究大会 (第64回岐阜県学校保健研究大会)

生涯にわたって心身ともに健康で  
安全な生活を実践する子の育成をめざして

～生活習慣に目を向け、  
進んで健康な生活を実践する子～

期 会 内	日：令和7年11月9日（日） 場：不二羽島文化センター（岐阜県羽島市） 容：開会式、表彰式、 研究発表 I 学校医園医部会 がん教育と命の大切さについて ～生活習慣による命を脅かす病気やがんを学ぶ～ II 栄養教諭部会 生活習慣と食生活について ～健康のために主体的に食生活を整えられる子の育成～ III 養護教諭部会 心身ともに健康的な生活を送るために 自らメディアコントロールできる子をめざして ～ウェルビーイングの視点から～ 記念講演 演題「がんとは何か 一身近な病気 がん～～オンコロジストの立場より～」 講師 松波総合病院 病院長代理・がんセンター長 岐阜大学医学部附属病院 客員臨床系医学教授 鶴見 寿 氏
-------	--

令和7年11月9日（日）、不二羽島文化センターにおいて県内外から213名の学校保健関係者の参加を得て、研究大会を開催した。

開会式、表彰式に続き、羽島市学校保健会が学校での実践を基に研究発表を行った。

続いて、「がんとは何か ～身近な病気 がん～～オンコロジストの立場より～」と題し、松波総合病院 病院長代理・がんセンター長 岐阜大学医学部附属病院 客員臨床系医学教授 鶴見 寿 氏の記念講演を開催した。がんについて新たな知見をご教示いただくとともに、がん教育を通して、正しい知識と命の大切さを伝える重要性を改めて実感することができた。

多くの皆様の支援により、大変有意義で充実した大会となり、成功裏に終えることができた。



## 虎ノ門（195）

### 家庭菜園

新年あけましておめでとうございます。どんなお正月を迎えるか？今年は丙午だそうですが、ますます出生率が下がってしまう…というのは過去の話であってほしいと願います。

どんな年になろうとも、「健康であること」は何にも代えがたい宝であると感じます。そのために欠かせないのが「食」と「睡眠」というのが持論です。そんな思いもあり、また比較的近くに貸農園がオープンしたのを機に家庭菜園を数年前から始めました。

農薬や化学肥料を使わないで育てるのがコンセプトの農園なので肥料はもっぱら鶏ふん、油かす、牛ふん。そして大事に育てている野菜が食べられないように害虫も原始的な方法、つまり手で駆除しております。都内の猫の額のような土地での栽培ですから、少しの野菜しか収穫できませんが、週末ファーマーには十分です。それでも夏場のきゅうりは瞬く間に大きくなるので週末だけでは間に合わず、週の途中、昼休みにも酷暑の中出かけては収穫しています。定番のなす、トマト、ピーマン、枝豆、冬は大根、キャ

ベツ、白菜、葉物、春になれば、そら豆など。とれたて野菜のおいしさは格別です。見栄えは悪くても味は最高！

野菜を育てるのは子育ても共通するものがあります。手間ひまはかけるけど、かけすぎはダメですし、そのタイミングも大事です。そして愛情こめて大切に育てた野菜はできが悪くてもおいしいものです。しかし、やはり気になるのが毎年悪化している気候変動です。ビニールハウスで温度管理して栽培しているわけではないので気温や雨量、種を蒔く時期、苗を植える時期も従来の常識が通用しなくなっています。

今季、大好物のスナップエンドウに初挑戦しております。四季ではなく二季とも言われ始めていますが、それでも「春」の収穫が楽しみです。

(会報『学校保健』編集委員会 委員 **山室 なおこ**)



令和7年度20歳未満飲酒防止  
啓発ポスター・キャッチコピー募集

### ポスター採用作品を決定！

たくさんのご応募、ありがとうございました。

本年度は73校、303作品の応募があり、学校における飲酒防止教育支援委員会において審査の結果下記の作品が各賞に選ばれました。

**最優秀賞**  
(ポスター採用作品)

**兵庫県美方郡新温泉町立夢が丘中学校**  
心のエッジで、正しい選択を 立ち止まって 未来を守る ストップ！ 20歳未満飲酒！

**優秀賞**

**北海道中札内高等養護学校**  
未来に向かってアクセル全開「飲まない」「断る」華麗な2ステップ ストップ飲酒

**佳作**

**宇都宮短期大学附属中学校**  
ストップ 20歳未満の飲酒！ ながされないで！ 未来への道は 自分できめる！



定価3,080円(本体2,800円+10%税)  
発行 日本学校保健会  
発売 丸善出版(株)

### 学校保健の動向 令和7年度版

発売中

特 集 学校における熱中症対策／子供の睡眠障害／  
学校歯科保健からみた口腔機能発達不全症への取り組み

- 第1章 健康管理の動向 児童生徒の発育・発達／感染症／内科等科目別 ほか
- 第2章 学校環境衛生の動向 学校環境衛生／学校給食の衛生管理
- 第3章 健康教育の動向 喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育／歯・口の健康教育 ほか
- 第4章 学校保健に関する組織・団体の最新の動向
- 第5章 資料編

購入は日本学校保健会HPまたは全国の書店で




お子さまのコンタクトも  
**はじめは  
メニコン。**

はじめての疑問に  
メニコンがお答え!

何歳くらいから  
はじめられるの?

どんな種類が  
あるの?

詳しくはこちらをCHECK!





ワコール ツボミスクールのご案内

ツボミスクールは、小・中学生の女の子(小4~中3)とその保護者・養護教諭の方に成長期のからだや下着についての基礎知識を学んでもらうためにワコールが開催している出前教室です。



詳しくはこちらから

**オンライン教室**  
成長期のからだやバストの変化、下着の役割について、わかりやすくお話しします。  
全国の小中学校で開催していただけます。

**テキストと動画の無料配布**  
成長期のからだや下着について学ぶことができます。初経指導や保健体育の副教材としてお役立てください。





第83回 **全国小学生歯みがき大会**

**大会期間**  
2026年 **6/1 月 ~ 10 水**

**申込期間**  
2026年 **1/5 月 ~ 2/27 金**  
10:00 ~ 24:00

申し込みを開始しています。お早めにお申込みください。

**開催概要**

参加対象	<b>小学校5年生</b> ※4年生・6年生でも参加いただけます。 ※いずれか1学年の参加となります。
定員	<b>6,100校 / 340,000人</b> (先着順)
参加費用	<b>無料</b> ※使用する教材(児童用ドリル、歯ブラシ、デンタルフロスなど)も無償で提供します。

**主催** (公社)日本学校歯科医会 / (一財)東京都学校保健会  
**後援** 文部科学省 / 東京都教育委員会 / (公財)日本学校保健会 / (公社)日本歯科医師会  
(公社)東京都歯科医師会 / (公社)東京都学校歯科医会 / (公社)日本歯科衛生士会

**歯みがき大会の内容**

歯ぐきについての学習 → 効果的な歯みがきの実践 → 繼続することの大切さを学ぶ

YouTube・DVDで参加可能

詳細はこちらからご確認ください!  
<https://www.lion-dent-health.or.jp/event/hamigakitaikai83/>



**KIDS DESIGN AWARD 2025**

「第19回キッズデザイン賞」における「子どもたちを産み育てやすいデザイン部門」にて受賞!

**第83回全国小学生歯みがき大会事務局**  
受付期間: 2026年1/5(月)~6/30(火) ※平日9時~17時

TEL 0120(253)641 E-mail: [contact@hamigakitaikai.net](mailto:contact@hamigakitaikai.net)